

研究計画書の作成に関する留意点

1. 研究課題（テーマ）名

研究の内容を具体的に記載する。

テーマから研究の内容が読み取れるように研究の鍵（キーワード）となる言葉を簡潔明瞭に記載する。

2. 研究実施分担者（共同研究者）の所属、氏名

研究筆頭者、及び共同研究者を全て記載する。

3. 研究の概要（動機、意義、方法、先行研究・先行文献等）

動機：研究をしようと考えたきっかけなどを記載する。

背景：研究のテーマを取り巻く状況。研究テーマに関し先行研究・先行文献において何が明らかで何が明らかでないのかを記載する。

意義：研究の価値や意味を記載する。研究を実施することで何に貢献できるのか（役立つ）を記載する。

4. 研究目的

研究で明らかにしたいこと、発見したいこと（目指すこと、確認したいこと）を簡潔に記載する。

4. 研究方法

1) 対象者

誰を対象とするのか、対象者への参加を依頼する方法や選択基準を記載する。対象人数（サンプル数）や除外基準についても記載する。

2) 研究期間

倫理審査にて承認を得た後からデータ収集後（まとめや論文作成は除く）までとする。

3) データ収集方法

データ収集の方法（質問紙法や面接法など）や手順等を記載する。

4) 分析方法

使用する統計量、測定する分析方法は何を使うか記載する。

5) 言葉の定義（必要に応じて）

研究で使用する言葉が意味すること（定義）を記載する。

6. 研究実施における倫理的配慮について

1) 研究の対象となる個人の人権擁護

倫理審査委員会の承認を得てから実施することを記載する。

個人情報の保護やプライバシーの尊重、収集したデータの取り扱いについて記載する。

2) 研究の対象となる者に理解を求め、同意を得る方法

インフォームドコンセント（研究参加にあたり自由意思が尊重されている。また、同意後に撤回できること、参加しない場合も不利益がないこと）について記載する。

3) 研究によって生じる個人への利益および不利益ならびに危険性

研究によって生じる利益と不利益（直接的、間接的）は何か、研究によって生じる危険性は何かを記載する。また、不利益や危険が生じた場合の対処方法も記載する。

4) 利益相反

企業・団体等との共同研究の実施、企業・団体等からの研究費の受領、その他研究者と特定の企業・団体等との間の経済的関係が存在する場合に、公的利益（研究により得られる成果の社会への還元）と私的利益（特定の企業、団体等から個人が取得する金銭、地位、利権等）が研究者個人の中に生じる状況のことを指す。

*日本看護学会における利益相反に関する指針より引用

5) その他

研究倫理チェックリストに基づき必要に応じて記載する。

7. 引用文献・参考文献

引用文献を使用した場合は、文中の引用箇所の右肩に文献番号を記載する。引用は孫引

きではなく、原典から引用する。

8. 添付資料（対象者への説明文書、同意書、調査用質問紙、インタビューガイド、介入プロトコル等）